

教育目標		心豊かでたくましく、自ら学ぶ意欲をもつ児童の育成						
重点目標		①「わかる授業」「楽しい授業」をめざした授業改善の推進 ②豊かな人間性を育てる心の教育の推進 ③健やかな体の育成と健全な食生活の推進 ④共感的な児童理解に基づく生活指導の充実 ⑤教育環境の整備・業務改善と学校安全の充実						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成 学校教育	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	②基礎的、基本的な知識・技能を習得する。	・週に1回さくらタイム(放課後学習)を実施する。 ・漢字小テスト、算数タイムを定期的に実施する。	・教育課程部を中心にさくらタイム、放課後学習を計画的に実施し、学力補充に努める。 ・漢字小テスト、算数タイムを年間30回以上実施する。	B	・授業、さくらタイム、放課後学習等において、国語・算数の基礎学力の定着に努めた。 ・算数の学習で自発的に参加したい児童も増えてきた。 ・基礎的、基本的な内容の到達状況を把握するために、国語・算数のCRTテストを全学年実施した。	・引き続き、基礎、基本の定着のための努力を怠らぬ。(授業・研修・漢字小テスト・算数小テスト・さくらタイム・放課後学習等) ・引き続き、国算において学力の保障を継続させる。	成果と課題から「改善策」を導き出した努力に、次回「自己評価」向上に期待がもたれます。今回はA評価となりますように。
		①思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。	・CRTテストを全学年で行う。	・年度末にCRTテスト(国語・算数)を実施する。	・全教科で行う。	・レポートや新聞などの書く場面を発達段階に応じて授業に取り入れることができた。 ・思考を深めるためにペア活動やグループ活動を授業に取り入れることができた。	・テスト結果をもとに指導のあり方を工夫・改善していく。 ・アシストシートにより、児童の弱点補充を行っていく。 ・全教科で効果的な方法を考え実施する。	
		①主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。 ①読書活動を充実させ、読書力の獲得を図る。 ③家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・授業における観察・実験、レポートの作成、論述などの学習活動を発達段階に応じて充実させる。 ・単元の中で、ペアや全体において、自分の考えを伝え合うなどの話し合いの場を設定する。 ・家庭での読書、長期休業中の貸出冊数の増加、年1回の「読書月間」の推進、学級文庫の充実、電子図書の利用により読書習慣作りを進める。 ・さくらノートの活用や読書を含め、家庭学習の目標時間(低学年30分、中学年60分、高学年90分)を達成させる。	・児童アンケート「本を読んでいる」の回答で、週1時間以上読んでいると回答した割合が70%以上になる。また、保護者アンケートの「家庭で読書ができる環境を作っている」と回答した割合が70%以上になる。 ・児童アンケート「先生は教える方」の回答で、「先生は教える方」に回答した割合が85%以上になる。 ・児童アンケート「1日の欠席でも理由によって連絡を取り、保護者への強い働きかけを行う」と回答した割合が90%以上になる。 ・児童アンケート「1日の欠席でも理由によって連絡を取り、保護者への強い働きかけを行う」と回答した割合が80%以上になる。 ・児童アンケート「命を大切にしたい」と回答した割合が85%以上になる。	・児童アンケート「先生は教える方」に回答した割合が85%以上になる。 ・児童アンケート「1日の欠席でも理由によって連絡を取り、保護者への強い働きかけを行う」と回答した割合が90%以上になる。 ・児童アンケート「1日の欠席でも理由によって連絡を取り、保護者への強い働きかけを行う」と回答した割合が80%以上になる。 ・児童アンケート「命を大切にしたい」と回答した割合が85%以上になる。	B	・「先生は教える方」に回答している割合が90%を超えている。 ・通常の授業において、タブレットを活用することができた。 ・情報活用能力(情報モラル)について課題がある。 ・教員のICT機器に対する知識を深めていく必要がある。 ・家庭での活用に課題がある。	・読書月間の内容の見直し、週末に読書の宿題を出すなど、読書の習慣作りを進めていく。 ・図書館からの配架の充実を図るとともに、学期ごとに学年で学級文庫の交換を呼びかける。 ・学校での読書の習慣を家庭でも継続できるように、読書月間や図書日よりの発行などを通して家庭読書を推進していく。 ・読書環境充実の一環として、図書ボランティア活動を立ち上げる。 ・朝読書の時間を確保する。 ・家庭学習を取り組む良さや必要性を懇話などを通し、伝えていく。
	「新しい時代に対応した教育の推進」 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	①授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。	・導入・展開・まとめのそれぞれにおいて、電子黒板やタブレット等のICT機器の活用を進め、児童の学習意欲を高める。	・児童アンケートにおいて、「先生は教える方」に回答した割合が85%以上になる。 ・電子黒板やタブレット等を各教科の中で効果的に活用する。	B	・「先生は教える方」に回答している割合が90%を超えている。 ・通常の授業において、タブレットを活用することができた。 ・情報活用能力(情報モラル)について課題がある。 ・教員のICT機器に対する知識を深めていく必要がある。 ・家庭での活用に課題がある。	・授業の中で、効果的にタブレットを活用する研究を進めていく。 ・機器の操作だけでなく、インターネットやSNSの使い方等、情報モラルについても指導していく。 ・ICT支援員を活用していく。 ・家庭での活用方法を発信できるように努力する。	ICTやAIの普及で、教育が変わりつつあることを感じる。効果的な学習への尽力に感謝する。
		③不登校児童の未然防止に努める。	・1日目の欠席でも理由により家庭訪問を行うとともに、関係機関との連携を密にし、保護者への強い働きかけを行う。 ・各学期はじめの月を「あいさつ月」と位置づけあいさつ運動に取り組む。 ・各学期1回は、「いじめアンケート」調査を実施し、その対応を図る。	・児童アンケート「1日の欠席でも理由によって連絡を取り、保護者への強い働きかけを行う」と回答した割合が90%以上になる。 ・児童アンケート「先生は教える方」に回答した割合が85%以上になる。 ・児童アンケート「命を大切にしたい」と回答した割合が85%以上になる。	B	・1日の欠席でも理由によって連絡を取り、保護者への強い働きかけを行うと回答した割合が90%以上だった。 ・「自分大切にすることや他人への思いやり」についても教えてもらっている」と回答した児童が90%以上であった。 ・「先生や友だちにすすんであいさつしている」と回答した児童が75%であった。代表委員会が積極的にあいさつ運動を行った。また、管理職や教職員が登下校時にあいさつ運動を行った。 ・「子どもは自分からあいさつしている」と「挨拶のきまりや学習に集中できる子に家庭でも話している」と回答した保護者の割合が低く、家庭の理解をより一層得る必要がある。 ・「挨拶のきまり」について、教員の指導に少しばらつきがあるので、全教職員が同じように指導にあたる必要がある。	・家庭とのつながりを深めるとともに、不登校対策連携会議や職員会などで職員間の共通理解を図り、状況を把握する。 ・不登校対策支援員やふれあい相談員等の配置を強く希望する。 ・児童の様子を注意深く観察して、児童理解に努める。 ・引き続き、毎月児童の様子を共通理解する場を設ける。 ・さらに、あいさつの大発表を提示し、地域にもあいさつができるよう推進に努める。 ・引き続き、毎学期に行っている「挨拶のきまり」返り手を持ち帰らせ、家庭でも話し合いができる機会を設ける。 ・教職員に配布している「生徒指導共通理解事項」を各学年熟読し、共通理解を図る。	本校における「不登校問題」解決は、深刻な課題と捉えている。
	「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童・生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	①生活の中で自ら進んで運動に親しむ児童を育て、基礎体力の向上をめざす児童を育てる。	・体力作りの研修会を持ち、体育時にサーキットトレーニング等を効果的に取り入れ、体力作りの基礎を培う。 ・冬の業間休みに週一回耐寒運動を実施する。 ・領域のバランスを考えた体育の年間指導計画を立案し、運動に親しむ機会を増やす。	・児童アンケート「1日の欠席でも理由によって連絡を取り、保護者への強い働きかけを行う」と回答した割合が80%以上になる。 ・児童アンケート「1日の欠席でも理由によって連絡を取り、保護者への強い働きかけを行う」と回答した割合が80%以上になる。 ・児童アンケート「1日の欠席でも理由によって連絡を取り、保護者への強い働きかけを行う」と回答した割合が80%以上になる。	C	・スポーツテストの結果が全国平均を上回った。 ・「運動能力や体力の向上を図り、粘り強い児童の育成に努めた」と回答する教職員は80%を下回った。 ・児童は、耐寒運動の大綱に参加することができた。 ・児童アンケート「1日の欠席でも理由によって連絡を取り、保護者への強い働きかけを行う」と回答した割合は80%を下回った。	・サーキット運動を取り入れるなどの授業改善を行っていただけるよう職員に伝えていく。 ・授業改善のため、ワークシートや授業計画などの情報を積極的に共有する。 ・体育により親しむことのできるような行事を行っていく。 ・外遊びに親しむ態度を育てるため、体育行事などを積極的に進めていく。	体力は、強い心・忍耐力や学ぶ姿勢に關わり、深刻な課題と思う。耐寒の大綱などの取組は良い。
		①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	①キャリア教育を推進し、主体的に学ぶ児童を育てる。 ②スクールカウンセラーを活用する。 ③教育相談の充実	・キャリアパスポートを記入し、言動を振り返る。 ・スクールカウンセラーによる授業を行う。 ②インクルーシブ教育の推進に努める。 ②児童理解に基づく適切な合理的配慮の提供と基礎的環境整備の充実	・キャリアパスポートを年間3回(目標・進捗の反省・年間の反省)実施する。 ・年間1回行う。 ・教職員アンケートにおいて「インクルーシブ教育について、職員間で共通理解し、各自の立場で推進している」と回答した割合が80%以上になる。 ・児童アンケート「1日の欠席でも理由によって連絡を取り、保護者への強い働きかけを行う」と回答した割合が80%以上になる。	B	・キャリアパスポートについて、小学校一・中学校と続けて取り組むと聞いているが、中学校への引き継ぎができていない。 ・スクールカウンセラーによる健康相談を行い、保護者に啓発できた。 ・特別支援教育部を中心に、インクルーシブ教育を推進し教職員アンケートで「共通理解し、各自の立場で推進している」と回答した割合は80%を下回った。 ・中学年に黒板用の大きなタイマーを設置する。	・キャリアパスポートの記入を促していても返り遅れや自分と向き合っていない等、中学校へ引き継ぎができていない。 ・「自分自身で成長しているのかを考えると進めたい」と進めたい。 ・「学年は、年間1回はスクールカウンセラーによる授業を行う。
	「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	①「わかる授業」を進めるため、授業研究を進める。	・授業力が高まるため、授業を公開し、授業研究を行う。校内研修(さくらカフェ)を定期的に行い、指導力を向上させる。 ・子どもたちの危機対応能力や災害に応じた対応力を育てる。	・年6回の校内研修を実施する。 ・児童アンケートで「学校で安全に気をつけて行動している」と回答する割合が90%以上になる。 ・児童アンケート「1日の欠席でも理由によって連絡を取り、保護者への強い働きかけを行う」と回答した割合が90%以上になる。	B	・年5回の校内研究、校内研修を実施し、教職員の授業力向上を推進できた。 ・話すための場づくりの第一歩として、子どもたちの考えに寄り添い、授業を進めることができた。 ・これまでの成果や今後の方向性がふれてしまった。 ・中学校の教科ごとの専門性を持った先生方も講師として招き、つながりを持った話を聞くことができた。 ・定期的に学校通信(学校だより)を発行したり、HPを更新したりできた。 ・デジタル配信(スクールタクト等)を有効に活用し、学校情報をさらに積極的に発信する必要がある。	・年間で見通した計画を立て、無理なく推進できるようにする。 ・これまでの成果を活かして、系統性のある話すための場づくりを進めていく。 ・児童や学校としての成長を見つめながら、現在の本校の児童の実態に合わせ、研究に生かしていく。 ・IoT支援員を活用し、積極的に情報発信をする。	長年にわたる授業研究への姿勢に感謝する。
		①「わかる授業」を進めるため、授業研究を進める。	・授業力が高まるため、授業を公開し、授業研究を行う。校内研修(さくらカフェ)を定期的に行い、指導力を向上させる。	・年6回の校内研修を実施する。 ・児童アンケートで「学校で安全に気をつけて行動している」と回答する割合が90%以上になる。 ・児童アンケート「1日の欠席でも理由によって連絡を取り、保護者への強い働きかけを行う」と回答した割合が90%以上になる。	B	・年5回の校内研究、校内研修を実施し、教職員の授業力向上を推進できた。 ・話すための場づくりの第一歩として、子どもたちの考えに寄り添い、授業を進めることができた。 ・これまでの成果や今後の方向性がふれてしまった。 ・中学校の教科ごとの専門性を持った先生方も講師として招き、つながりを持った話を聞くことができた。 ・定期的に学校通信(学校だより)を発行したり、HPを更新したりできた。 ・デジタル配信(スクールタクト等)を有効に活用し、学校情報をさらに積極的に発信する必要がある。	・年間で見通した計画を立て、無理なく推進できるようにする。 ・これまでの成果を活かして、系統性のある話すための場づくりを進めていく。 ・児童や学校としての成長を見つめながら、現在の本校の児童の実態に合わせ、研究に生かしていく。 ・IoT支援員を活用し、積極的に情報発信をする。	ORコードの活用促進をお願いする。
	教育環境の整備・充実	「学校を支える組織体制」の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	②色んな機会を通して、積極的に学校情報を発信する。 ①「わかる授業」を進めるため、授業研究を進める。	・学校だよりを月1回以上発行し、地域にも配布する。 ・学校ホームページを定期的に更新し、学校情報を積極的に発信する。 ・懇話時等で保護者の願いや意見を聞き、情報を発信する。 ・児童アンケート「1日の欠席でも理由によって連絡を取り、保護者への強い働きかけを行う」と回答した割合が90%以上になる。	A	・定期的に学校通信(学校だより)を発行したり、HPを更新したりできた。 ・デジタル配信(スクールタクト等)を有効に活用し、学校情報をさらに積極的に発信する必要がある。	・幅広い視点で、旬な情報を発信することで、保護者の関心を高めたい。(まなびポケット、スクールタクト等の活用) ・IoT支援員を活用し、積極的に情報発信をする。	ORコードの活用促進をお願いする。
安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進		①「わかる授業」を進めるため、授業研究を進める。 ②子どもたちの危機対応能力や災害に応じた対応力を育てる。	・防災訓練(火災1回、地震1回)を実施する。(年2回) ・防犯訓練(不審者)を実施する。(年1回) ・引き渡し訓練を実施する。(2年に1回、今年度実施) ・安全点検を行う。(月1回)	・児童アンケートで「学校で安全に気をつけて行動している」と回答する割合が90%以上になる。 ・児童アンケート「1日の欠席でも理由によって連絡を取り、保護者への強い働きかけを行う」と回答した割合が90%以上になる。	A	・「学習の場として活動しやすい環境が整っている」「子どもの安全に関する適切な指導をしている」と回答した保護者は90%以上であった。 ・緊急時対応用の鍵を各教室に設置した。 ・地震避難訓練の事前学習用資料の内容を見直し、新たに作成した。ろうかを走る児童が多く、粘り強い声かけが必要である。 ・2学期の防犯訓練の時期を早める。 ・職員全員で粘り強い声かけをしていく。 ・廊下を走らないための視覚的支援を段階的に実施していく	大要素晴らし取組である。	

学校関係者評価
長年の取組に弾みをつけて、評価の向上を再度お願いしたい。
また、挨拶運動の更なる推進をお願いしたい。

次年度に向けた重点的な改善点
・学力向上について、基礎的基本的学力の向上・定着に向け、朝学習の取組を充実させる。
・校内研究を意識した授業改善として、授業のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、「書きたい」「話したい」を実現する場づくりの工夫に努め、意欲的な学習態度の育成を図る。
・引き続き、ウェルビーイングの向上をめざして、学校・家庭・地域が連携して取り組む。